

（目的）前報に引きついで、全国の公立保育所給食献立の分析を行い、調査を行った。今回は地域によって摂取状況や仕方に違いがみられると考えられる魚介類及び加工品を取り上げた。同時に、地域に違いがある保育園児にアンケート調査を行い、魚介料理の摂取状況や魚介類に対する嗜好、魚介類を使った伝統料理の好き嫌い等を調査した。

（方法）保育所の献立は前報同様昭和62年度 3才以上の昼食献立を用い、全国より30箇所を選出した。魚介類の出現頻度、月別使用割合、調理形態、魚の種類、伝統料理の使用状況等を検討した。アンケートは神奈川県海岸部茅が崎・平塚市、埼玉県所沢市と都市部の町田市にある保育園児3～6才に依頼した。回収数は海岸部 90、所沢市 47と町田市 44の計181（男児 99、女児 82）である。

（結果）調査対象園を海岸部（A群）、海から離れた地域（B群）、都市部等のその他（C群）にわけて検討した結果、魚介類及び加工品の出現頻度には違いがみられた。魚介類の出現率の平均値はA群 11.7%、B群 8.8%、C群 12.6%で、加工品の出現率の平均値は、A群 3.1%、B群 5.0%、C群 2.7%を示した。B群では魚介類の使用は少ないが、加工品の利用は高く、冷凍魚の使用が多い。月別使用割合でも、B群は季節による変動が少ない。調理形態では揚げ物が全国的に多いが、B群の地域では、煮魚の多い所が多い。魚種ではサケ、サバなどの使用に地域特性がみられた。伝統料理は味噌煮、蒲焼き、つみれ汁、炊き込みご飯等がみられた。アンケート結果では、魚料理に対して65%の母親 約60%の幼児が好きと答えている。好まれる料理方法や魚種などに居住地域による違いがみられた。